

中3（9年生）理科の授業でイチゴ農家さんの事例

豊田中学校の北隣にビニールハウスが数棟あります。そこでは、数々の賞を獲った美味しい「イチゴ」が生産されています。数年前に、特別支援学級の生徒が箱作りでお世話になったことのある鈴木勇一さんのビニールハウスです。



3年生の理科「生命の連続性～無性生殖」の中で「おいしいイチゴをつくる仕事」という項目があり、本校の理科教諭が鈴木さんに実際のお話を伺ってきました。

イチゴは、有性生殖と無性生殖どちらも行う植物です。鈴木さんが生産されている「紅ほっぺ」と「きらび香」について聞くと、この品種を生み出したのは、これも学区内、富丘にある「静岡県農林技術研究所」とのことです。品種改良は「有性生殖」で行うそうですが、鈴木さんのところでは、その苗を元に「無性生殖」で苗と実を増やしているとのこと、実際に見せて頂きました。



気温や水、日照、肥料など、生産者の工夫や苦労話、静岡県や農協で受賞した話、そのイチゴがすぐ近くのお店で売っている話などをお聞きでき、この単元「生命の連続性」について、よりリアルな生活に密着した授業を実践することができました。

学校のすぐ隣で、今学んでいることが活用されていることが良く分かり、大変勉強になりました。鈴木さん、ご多忙の中、授業のための取材をさせて頂き、ありがとうございました。

